

2013

小さな自然観察クラブ

第1回目は、ニホンザリガニを探そう を開催しました。

5月11日に2013年度第1回目の観察クラブを開催しました。今年度は小学1年生から中学1年生まで、予定を超える36名がメンバー登録してくれました。最初に博物館で開会式を行い、みんな元気よく自己紹介をしてくれました。“一番楽しみにしている回”では今回のニホンザリガニ、秋のヤマベ釣り、キャンドル作りが人気だったようです。



開会式の様子



険しい沢を上がって探索

さあ、バスに乗り込んで期待の高いニホンザリガニ探しに出発！行き先は市内旭東の沢です。途中の車内でニホンザリガニの学習をしました。昔から日本にいる唯一のザリガニで、北海道と東北北部にしか生息しておらず、最近では環境が変わって数を減らし、絶滅危惧種に指定されています。現地に着くと最初にザリガニ捕り名人の指導員から見つけ方を

教わりました。ニホンザリガニは流れのある場所にはおらず、横の土や小砂利に穴を掘って棲んでいるとのこと。さあ、何匹見つけられるかな？

2班に分かれ沢を上りザリガニ探しの開始！雪解けで水量が多く冷たいですが、子供達は元気よく長靴を水につかりながらザリガニを探していました。しかし、いくら探せどもザリガニの姿は見えす……。諦めかけていたその時……。いました！一匹だけですが小さいニホンザリガニをクラブ員の女の子が見事発見しました。その後、指導員がもう一匹



捕まえたニホンザリガニを観察



最後は沢に帰してあげました

見つけて今日の収穫は2匹！数は少ないですが、ザリガニ探索ミッション見事に成功です！よく観察した後、絶滅危惧種であるニホンザリガニ保護のため、事前に捕まえていた3匹も含めた計5匹を、もっと増えることを願って沢に帰してあげました。

思っていたほど捕まえることはできませんでしたが、それだけニホンザリガニの数が減ってしまったということ。もっとニホンザリガニが棲みやすい環境になるよう自然を守っていかねばならないと学んだ観察クラブでした。



みんなで記念撮影をしました

2013

小さな自然観察クラブ

第2回目は、親子ピヤシリ山ハイキングを開催しました。

6月15日に第2回観察クラブ「親子ピヤシリ山ハイキング」を開催しました。今回の行き先は名寄の最高峰ピヤシリ山。校歌の歌詞などにも出てくる名寄地方では名の通った山ですが、実際に登ったことがある方は少ないのではないのでしょうか。今回は親子行事ということで多くの保護者も参加し、50名以上の大人数での登山となりました。



まずはマイクロバス2台で8合目のゲートまで登ります。この日の天候は小雨交じりでしたが、ゲートに着くころには雨はあがっていました。さあ、登山開始！まだ雪の残る登山道をひたすら歩きます。途中、ピヤシリ語源（アイヌ語で石の山）のとおり、ゴツゴツした岩を横目にもくもくと登りました。歩いているうちに日差しも出てきました。

山頂付近の避難小屋に到着。高山植物のキバナシャクナゲが出迎えてくれました。いよいよあと少しで山頂です。高山植物であるハイマツの道を抜けて行くと・・・着きました！名寄の最も高い場所、986.6mの頂上に到着です。朝の雨がうそのように晴天の下、素晴らしい景色が広がっていました。子供達、保護者ともその絶景



に感激していました。

下りは気持ち良い日差しの中をスイスイ歩きました。途中でサンショウウオの卵も発見！みんな怪我もなく無事下山することができました。

今回は名寄で一番高い場所に立ち、最高の眺め

にも出会い、とても達成感のあった観察クラブでした。どこまでも広がる緑の景色。上から眺めると名寄の自然の多さを改めて実感できたのではないのでしょうか。



2013

小さな自然観察クラブ

第3回目は、松山湿原・仁宇布滝めぐりを開催しました。

7月13日に第3回観察クラブ「松山湿原・仁宇布滝めぐり」を開催。今回は午後3時までといつもより長く、行き先も美深町仁宇布地区といつもより遠出をしてきました。



バスで揺れること1時間。松山湿原の麓、天竜沼駐車場に到着。さあ、山頂にある美しい湿原を目指していざ出発！ 登り始めると早速、道の脇に白い花がたくさんあります。ゴゼンタチバナやマイツルソウ、エゾアジサイなど、この時期の松山湿原は花の宝庫。登りのつらさを忘れさせてくれます。途中の展望台から見える眺めも絶景。仁宇布（ニウブ）はアイヌ語で「森林」の意味ですが、そのとおりの大森林が広がっていました。



登ること40分、とうとう山頂に到着。そこはまるで別世界。松の枝が下に向き、ワタスゲが風に揺れ、沼は青い鏡のよう。普段なかなか見ることができない光景でした。湿原を一周してから下山。スタート地点の駐車場でお昼ご飯を食べました。みんなで食べるお弁当はやっぱり美味しい！

次はバスで移動して滝めぐり。

最初は「女神の滝」へ。この滝の上は鉛筆を横にして積み重ねたような柱状節理岩になっており、自然が作り出した珍しい風景に感動していました。次に見た「雨霧の滝」は垂直に切り立った崖から流れ落ちる豪快な滝で、マイナスイオンを浴びながらみんなで記念写



真を撮りました。帰りは名水百選に選ばれた「仁宇布の冷水」を飲み、その美味しさに感動！ペットボトルにいっぱい汲んで帰りました。

今回は美深町まで足をのばして仁宇布の大自然を満喫してきました。美しい花や滝の風景に癒され、元気をもらった観察クラブでした。



2013

小さな自然観察クラブ

第4回目は、

ヤマベ釣り・サケ遡上見学 を開催しました。



9月14日に第4回観察クラブ「ヤマベ釣り・サケ遡上見学」を開催しました。あいにくこの日は小雨交じりの天気。川が濁っていることに加え、サケが北の中川町付近までしかまだ遡上していないとの情報もあったため、見られる可能性が低く、今回のサケ遡上見学は断念。ヤマベ釣りだけを行うことにしました。

ピヤシリ川に到着し、釣竿の準備も整って、いざ釣り場へ！というところで突然の大雨……。近くの東屋で雨宿りです。待つこと20分、ようやく小降りになってきたため、釣りを開始しましたが、釣りの途中も小雨が降ったり止んだりの天気。体も冷えてきたため、1時間ほどでやめて帰ることにしました。



しかし、短い時間でしたが、釣れたヤマベは10匹以上！ここ数年の中でもなかなかの釣果です。雨が降っても、水が濁ってもヤマベは水中にいるのですね。釣ったヤマベを数人の子が家に持ち帰りました。夜の食卓には美味しいヤマベが並んだことでしょう。

今回、参観日と重なってしまい欠席の子たちが多かったので、特別に16日の祝日にも欠席の子対象にヤマベ釣りを開催しました。この日も小雨が時折降る天候でしたが、やはり10匹以上のヤマベを釣ることが出来ました。

2日間合計で20匹以上と今年もたくさんのヤマベを釣ることができました。このヤマベが海で大きくなったのがサクラ

マスで、産卵のために生まれた川へ帰って来ます。この時期、下川町のサンル川などに遡上したというニュースが新聞などでよく取り上げられます。このピヤシリ川にも数は少ないでしょうがサクラマスが遡上してきているはず。産卵するにはきれいな川であることが不可欠です。これからもサクラマスやサケが戻って来るような自然あふれる美しい川を大事に守っていきましょう。



2013

小さな自然観察クラブ

第5回目は、親子ダッチオーブン料理 を開催しました。

10月12日に第5回観察クラブ「親子ダッチオーブン料理」を開催しました。今回は親子行事ということでたくさんの保護者が参加し、とても賑やかな観察クラブとなりました。当日は朝から小雨がポツリポツリの天気。テントと手作りターフの下での炊事作業となりました。今日のメニューはダッチオーブンで焼くスタッフドチキン、鉄鍋で作るポトフ、羽釜と薪ストーブで炊くご飯で握った塩むすびの三品です。



まず各班の代表がお米とぎを行いました。博物館らしく昔の一升枧を使って計り、羽釜に移し替えて薪ストーブにセット。うまく炊けるかな？ 次にスタッフドチキンの準備。細かく切った野菜と冷凍ピラフを鳥肉に詰めます。鳥が丸ごと登場したときは「キャー」「うわー」と大騒ぎでした。具をパンパンに詰め込むとダッチオーブンに入れて上と下から炭で加熱。このまま1時間待ちます。

お次はポトフ。お母さんたちに教わりながら野菜を切る子供達、みんな家でもやっているのかとても上手。野菜に加えて、きのこウイナーも投入された鉄鍋を火にかけて準備完了。あとは煮えるのを待つだけです。

途中、雨が強くなり嵐のような天候になりましたが、料理は無事完成。ダッチオーブンの蓋を開けると中にはこんがり焼けた美味しそうなチキンが！思わず歓声が上がります。ご飯もうまく炊け、みんなでおむすびを握りました。ポトフもきのこのだし



が出て美味しそう。さあ、みんなそろって「いただきます！」。食べる頃には太陽も出て天気が良くなってきました。やはり自分たちで作った料理は格別！大勢で外で食べるとなればなおさらです！みんなモリモリ食べておかわりもしていました。

今回は自然の中で火を使って料理をしました。電気がなくてもこんな美味しいものが作れます。たまには昔の人になった気分で作った料理をするのも良いですね！



2013

小さな自然観察クラブ

第6回目は、**キャンドル作り**を開催しました。

11月9日に第6回観察クラブ「キャンドル作り」を開催しました。ろうを溶かしてオリジナルキャンドルを作るこの企画、毎年子供達に大人気です。この日は少し雪が積もっており、いよいよ冬の到来を感じさせ、キャンドル作りにぴったりの日でした。

さあ、キャンドル作りの始まり。まずは使い古しのろうを湯せんで溶かします。熱湯を使うのでやけどに注意しての作業です。



ろうは見る見るうちにとけて透明になりました。次に削ったクレヨンを入れて色をつけます。ここではカッターを使うので怪我しないよう慎重に作業することが大事です。お次は芯を立てた容器に色のついたろうを流し込み、氷水で冷やします。これを繰り返すと色が何層にも重なった素敵なオリジナルキャンドルが出来上がるのです！

さあ、どんどん作品が出来てきました。毎年来ている子はもうベテランの域！いろんな工夫をしながら独特なキャンドルを生みだします。初めて作る子も作業が進むうちにだんだん慣れてきて、上手に色を重ねたキャンドルが次々と完成していきます。最後にお気に入りの作品を持って記念写真をパチリ。みんないい笑顔！



世界に一つだけのオリジナルキャンドルが出来上がりました。クリスマスの夜は電気を消してこのキャンドルを灯してみましょ。暖かい光が家族を包み、自然と笑顔が生まれます。それは昔から続いてきた家族だんらんの風景なのでしょうね。



2013

小さな自然観察クラブ

第7回目は、アクリルアクセサリー作り を開催しました。

早いもので今年最後の観察クラブ、第7回「アクリルアクセサリー作り」を12月14日に開催しました。アクリル樹脂を使って木の实や花など自然物を封入し、自分だけのオリジナルアクセサリー作りに挑戦しました。

まずは中に入れる自然物を決めます。どんぐり、くるみ、貝殻、押し花など、何を入れようか迷いますね。中には自分の家から持ってきたリボンなどの小物やプリクラなどを入れる子もいました。みんなアイデア豊富で驚かされます！



中に入れるものが決まったらいよいよアクリルを流し込みます。最初に底になる部分を薄く容器に入れて、少しかたまったら自然物をセット。その後、上からまたアクリルを流し込みます。後は固まるのを待つだけ。2時間ほどである程度固まりますが、完全に固まるまでは5日間ほどかかります。待ち遠しいですね。

次にすぐ固まる薬品を使ってビーズとスパンコールのアクセサリー、最後に落ち葉や押し花をラミネートフィルムに入れて下敷きを作りました。出来上がった作品を持つての記念撮影では、みんな作品の出来栄に満足そうな笑顔。帰ったらおうちの人に見せてあげてくださいね。

今回は最後の回なので、今までの6回の観察クラブを振りかえるDVD上映会をしました。色々なところに行って、たくさんの自然と触れ合った日々が思い出されます。最初のころに比べて皆さんの自然を見る目は格段にアップしたことでしょう。昨年までは気付かなかった身近な自然も、今なら見方は大きく変わっているはず。街から一步踏み出せば自然があふれているこの名寄で、これからもたくさんの体験をして「自然の達人」になってくださいね！

